【授業科目】疫学　　Epidemiology

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
工藤 安史	２年次 後　期	選　択	２	３０	講　義		巻末 掲載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／疫学の概念と歴史、年齢調整死亡率、疾病の指標、疫学研究の種類、スクリーニングなどについて学ぶ。 また、講義で解説をした後に、保健師の国家試験の過去問を多数解くことで、知識を定着させる。 課題に対するフィードバック方法／授業中の確認テストおよびレポート課題、さらに学年末試験などに対して、講義中および掲示板を通して、学習方法について助言する。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー②「人間の健康を環境との関係において捉え、地域社会の生活者の視点から看護の役割を考え、実践することができる」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達すべき目標）	① 保健師・看護師として知っておくべき、疫学の基本概念について説明することができる。 ② 疾患の発生、流行、疫学で用いられる指標について説明することができる。 ③ 疫学研究で用いられる手法について説明することができる。
時間外学習に必要な内容・時間	第 1 回から第 15 回の事前学習：講義レジメを配布しますので、レジメを予め読んで来てください。また、教科書で該当する箇所を読んできて下さい。（目安となる事前学習の時間は、1 回あたり 2 時間です。） 第 1 回から第 15 回の事後学習：講義で指導した内容を踏まえ、レジメプリントおよび教科書を中心に復習して下さい。（目安となる事後学習の時間も 1 回あたり 2 時間です。） ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1 回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習 1 時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第 1 回　疫学の概念や歴史を学ぶ 疫学とは何か、ジョン・スノウや高木兼寛による疫学研究の歴史について学ぶ。 第 2 回から第 3 回　年齢調整死亡率 直接法と間接法による年齢調整死亡率について学ぶ。 第 3 回から第 4 回　疾病の指標 有病率、罹患率、致命率、人年法などについて学ぶ。 第 5 回から第 10 回　疫学研究の種類 無作為抽出法、記述疫学、横断研究、コホート研究、症例・対照研究、介入研究、バイアス、交絡因子などについて学ぶ。 第 11 回から第 14 回　スクリーニング 感度、特異度、陽性反応的中度、陰性反応的中度、スクリーニングレベルとその変動による影響、ROC 曲線、精度管理などについて学ぶ。 第 15 回 まとめ この講義についてまとめを行う。
全て 工藤	
評価方法 評価基準	筆記試験 100％で評価する。
教科書	浅野嘉延　看護学生のための疫学・保健統計学 改訂第4版　南山堂
参考書等	随時、紹介する。
学生への 助言等	統計処理に関して、「保健統計学」の講義で指導します。